

法人名

公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R4 ウエイト	R3 実績値	R4 目標値	R4 実績値 〔見込値〕	R5 目標値	R5 ウエイト	中期経営計画 (R4~R6)		R5目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R5 目標値	最終年度 目標値		
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナー広域参加者数 (京阪神以遠・各回平均)		人	10	216	150	242	—	—	90	90	中期経営計画の考え方はセミナー参加者300人の30%で各回平均90人と設定。これに基づきR4のセミナーWeb参加申込者(定員500人)の30%で各回平均150人に設定	—
	千里ライフサイエンスセミナー広域参加者率 (京阪神以遠参加者数/総参加者数)	☆	%	—	(40.3)	—	(47.1)	↓ 35.0	10	30.0 (90人/300人)	30.0 (90人/300人)	中期経営計画30%とWeb配信を開始した年度以降の平均約40%との中間値に設定	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、魅力あるテーマ、講師の選定を進める。
② 研究助成寄付金(3,000万円)の獲得による優れた若手の先進的研究の積極的な支援・助成	岸本基金研究助成応募件数		件	10	245	200	× 191	200	10	200	200	中期経営計画の目標値に設定	財団HPで応募要領を開示するとともに、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に応募要領を送付し、学内での案内を依頼する。
	岸本基金研究助成 広域からの応募(近畿圏以外) (近畿圏以外応募件数 / 総応募件数) ※60.0%以上70.0%以下が適正水準		%	10	73.5	60.0	72.8	↓ 60.0~70.0	10	60.0	60.0	中期経営計画の目標値をもとに設定 ※60%~70%の範囲内であった場合のみ加算	全国の主要大学に応募要領を送付するなど積極的な周知を図るとともに、研究助成業務支援システムの活用により、全国から応募しやすい体制づくりを行う。
③ 研究成果の実用化を支援	技術講習会参加者数 (目標値:上段「技術解説」下段「技術実習」)		人	10	18 (コロナのため中止)	50 10	65 14	↓ 50 ↓ 10	10	50 10	50 10	中期経営計画の目標値に設定 ※すべて達成の場合のみ加算	関係学会、関係企業への広報及び財団HPへの掲載に加え、財団のメール会員への広報を行う。
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム 会員参加者比率(各回平均) (会員参加者数 / 会員数)		%	10	48.4	66.7	72.8	↓ 66.7	10	66.7	66.7 (会員数150)	中期経営計画の目標値である会員数の2/3(=66.7%)に設定	会員の高齢化とともに新会員の増加が課題となっているが、会員にとって魅力あるフォーラムとするため、ライフサイエンスのみならず様々な分野のトピックを取り上げ、新規会員の獲得を行う。
	ホームページ総アクセス件数(月平均)		件	10	12,619	13,000	13,017	↓ 13,000	10	13,000	13,000	中期経営計画の目標値に設定	財団HPのコンテンツ充実、新規セミナーの掲載案内、メルマガへの掲載依頼等を通じ、財団HPへのアクセス件数の増を図る。 (Zoomウェビナーの活用等HPを経由しないでWeb聴講できるようにしたため、アクセス数減少の可能性がある。)
III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)													
⑤ 経営基盤の強化	効率的・効果的な資金運用		億円	10	1.03	0.90	1.08	↓ 0.90	10	0.90	0.90	中期経営計画の目標値に設定	資産運用規程に基づき、長期的な観点からのより効率的・効果的な資金運用を行う。

【凡例】

・☆はR5年度からの新規項目

・×は目標値未達成

・↓は前年度実績比マイナスの目標値

・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値

・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

■ 令和4年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

[1]

成果測定指標	単位	R4年度の実績値(見込値)	R5年度の目標値
千里ライフサイエンスセミナー広域参加者率 (京阪神以遠・各回平均)	%	47.1	35.0

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>R5は原則ハイブリッド開催を予定しているため、リアル参加者が増えるとリアル参加者はほぼ京阪神からの参加のため京阪神からの参加者割合は増えることが想定される。中期経営計画では広域参加率を30%としているが、Web配信を開始したR2年度から3年間の平均広域参加率41.7%との中間値である35%とする。</p> <p>R2 ⇒ R3 ⇒ R4 37.7 40.3 47.1 (%)</p>
-----------------------------------	---

[2]

成果測定指標	単位	R4年度の実績値(見込値)	R5年度の目標値
岸本基金研究助成 広域からの応募（近畿圏以外） (近畿圏以外応募件数 / 総応募件数)	%	72.8	60.0~70.0

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>岸本基金研究助成の広域からの応募（近畿圏以外）の割合は、R3年度に岸本基金研究助成10周年誌を作成し全国の大学、研究機関等に送付したことからさらに知名度が増し、72.8%と高くなった。ライフサイエンス研究に対する全国への支援は岸本基金のさらなる有効活用と財団事業の全国展開に資するものであるが、近畿圏と近畿圏以外のバランスを考慮し、中期経営計画の成果目標をもとに、60.0%から70.0%の範囲を目標値とした。</p> <p>H29 ⇒ H30 ⇒ R1 ⇒ R2 ⇒ R3 ⇒ R4 61.3 62.4 65.3 61.9 73.5 72.8 (%)</p>
-----------------------------------	---